

## 平成 24 年度第 3 回緑区地域福祉計画推進協議会議事要旨

### 【開 催】

開催日時 平成 24 年 10 月 20 日（土）14：00～16：00

開催場所 緑保健福祉センター2階 大会議室

出席者 委員 19 名中 15 名出席、手話通訳者 2 名  
事務局 8 名（緑保健福祉センター長、高齢障害支援課 2 人、緑区地域振興課 1 名、社協緑区事務所 2 名、市地域福祉課 2 名）  
傍聴人 1 名

### 【次 第】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
  - (1) 平成 24 年度緑区地域福祉計画の推進について
    - ①報告事項・各委員より報告
    - ②協議事項・各小委員会での協議の報告
- 4 その他
- 5 閉会

### 【議事及び質疑要旨】

#### 議題（1）平成 24 年度緑区地域福祉計画の推進について

中村副委員長の進行により各委員から活動報告があった。

#### ①報告事項

主な発言内容は以下のとおり。

（中村副委員長）田宮委員から報告をお願いします。

（田宮副委員長）特に今は予定が入ってないが、来年 2 月から 3 月に今年で 3 年目になる、フォーラムを企画している。

（山田委員）8 月はおゆみ野地区部会の活動を休止していた。9 月は高齢者福祉委員会のいきいきサロンを開催した。110 名が参加した。来場者は 77 名だった。またそのサロンの中で避難訓練を行った。来場者に 10 分間かけて、安全地帯に避難していただいた。子ども家庭委員会では乳幼児の父母向けに子育てサロンを行った。地域のヘルスマイトに離乳食の試食を作ってもらい大変好評だった。手遊びやわらべ歌をボランティアにやってもらい、107 名が参加した。地域で子育てをする人向けの講演会も開催した。「現在の親子関係を考える」というタイトルで臨床心理士に講演していただいた。参加者は 14 名だった。障害者委員会では障害者をもつ家族に集ってもらいおしゃべり会を開催した。参加者は 13 名だった。ボランティ

ア委員会は各委員会活動のサポートをした。また 10 月 14 日のけやき園祭で車椅子の方をサポートした。広報委員会では広報紙作成のための取材活動を行った。

(松戸委員) 前回の会議で見守り活動についての課題が提示された。おゆみ野地区連協も力を入れようとしているが個人情報の問題になり、ポイントが掴めない。必要であるが個人情報の問題で進まない現実がある。行政も参加しているので個人情報についてアドバイスしてほしい。泉谷小学校で 28 名参加して避難所運営準備会を行った。避難所の割り振りをしているが、内容がでたらめだった。高齢者が避難所に向かえない距離にあるケースもあった。明日地区連協の役員会を行うので岡本委員長に見守りについての考えを説明してもらう予定でいる。

(中村輝委員) 502 地区民生委員では敬老会を支援した。

(曾志崎委員) 椎名地区では資料 3 緊急連絡票を実施している。今後は社協で統一された書式にしてほしい。また警察や消防に実施していることについての働きかけをしてほしい。

(本田委員) 椎名地区では挨拶運動を行っている。また食育として田植えなどの体験学習を支援している。椎名地区部会として 7 月に広報紙を発行した。今まで古市場地区で行っていた出張相談を 10 月からあんしんケアセンター鎌取の協力でいきいきサロンとして開催した。ふれあい食事会も引き続き開催していく。

(小山委員) 椎名地区では平成 24 年度に古市場公園で発災対応型防災訓練を行った。区からの要望で小学生も参加してもらった。クラブ活動を通じて子供達の参加者を集めようとしたが、難しかった。また回覧を配布しただけでは参加者は集まらないので、町内会長が 1 件 1 件まわって依頼した。学校から強制的に参加を促すことは難しかった。3 回会議を行って、熱中症や中止時の対応についても考えた。道路を封鎖して、道路を駐車場にした。全員で 263 名の参加があり無事に終了した。

(中村副委員長) 移送サービスとして 9 月末現在で 124 名の会員が登録して 55 名が常時利用している。

(稲山委員) 土気地区ではいきいきサロンが 1 箇所増えて 18 箇所で開催している。はなみずきにあるサロンは社協地区部会から独立しているので数に加えていない。それぞれのサロンは工夫して行っている。本日ガーデンコートでサロンが始まるので今後は 19 箇所になる。

子育てサロンはふれあい体験学習を 3 中学校で開催した。またサマーフェスティバルが 8 月 25 日 26 日に開催されたので参加協力した。越智地区と土気地区で敬老会を民生委員が中心となり行った。10 月 31 日に広報紙を発行し、11 月 23 日にウォークラリーを開催する。

(鳥山委員) 誉田地区ではいきいきサロンを複数箇所行っている。子育てサロンは 501 地区 506 地区 507 地区の範囲を対象に行っている。参加者が口コミで増えている。ふれあい食事会で食材の集め方の問題が発生している。中国産を使わないので食材が高くなり、6 月は去年より 1 万円強高くなった。

食数は減っているのに赤字になる。これからは1つの業者ではなく、安いところを見つけ集めるようにしていく。まだ公民館には交渉していないが87食分の食材を一時的に保管する場所がない。スーパーには冷蔵保存の交渉をしている。

506地区は民生委員が高齢者へ敬老のお祝い品物を届けている。敬老会開催は2箇所のみである。不在のため9回訪問した家もあった。

(坂井委員) 4月から親睦会をスタートしている、7月には聴覚障害者が10人くらい集まり、鎌取コミュニティセンターで行った。9月にもボーリングレクレーションを行った。2ヶ月に1回開催していく予定でいる。課題は個人情報である。緑区の聴覚障害者がどこにいるか分からない。私の家から近い聴覚障害者の家には街灯がついていない。庭の草が伸びている。安否確認できればいいと思う。聴覚障害者の各家庭を訪問して情報を把握したい。どのように進めていけばいいのか分からない。

(岡本委員長) 聴覚障害者の集まりを計画したいということか。

(坂井委員) もう始まっている。集める方法が口コミだけになっている。恐らく全体の1割しか集まっていないと思う。残り9割がどこにいるか分からない。行政から連絡できるか。

(中村副委員長) 避難訓練で小学校が協力できない理由は何かあるのか。

(小山委員) 休日なので難しいとのこと。乾パンの参加品は消防からもらった。

(本田委員) 敬老会の記念品は何か。

(鳥山委員) クッキーとかお菓子で2ヶ月もつもの。1000円のを750円で買って、千葉市の補助金で足りない部分は町内会から補助金をいただいた。タオルも配布した。地域の業者を使っている。

(小山委員) 緊急連絡票を民生委員でやっているが、冷蔵庫に貼っている。警察や消防が万が一に助けに行くことになっているが、阪神淡路大震災では警察や消防が災害時に助けに来られない現状がある。民生委員が町内自治会と協力していくのが一番良いが個人情報が引かかる。地区連協と民児協が協力すべきである。

(中村輝委員) 個人情報について貴重な意見があった。大地震は自を助けるのが一番大切で次に近隣を助ける。今回配布した緊急連絡票は日常生活の中で倒れた場合に使うのが目的の一番である。

(山田委員) 救急車が来た時にどの病院に行くのか迷う時間をなくす目的がある。

(曾志崎委員) ) 小山委員が問題にしているのは、民生委員の名簿がなぜ町内自治会に来ないのかということだと思う。

(松戸委員) 連協でも向こう三軒両隣が出来ていない現状を把握している。個人情報は役所にも相談しているが非常に難しい問題である。見守りネットワークは絶対に必要なことである。

(鳥山委員) 要支援1, 2の方で近隣との関係が取れている人は少ない。緊急通報装置の連絡先がない方も多い。地域包括支援センターは今後も見守り活動に関わっていきたいので見守り委員会に入っている。12月の講演で個人情報や近隣関係へのヒントを集めたい。

- (田宮副委員長) 神奈川県で人の命が関わるときに個人情報撤廃できる条例ができたという内容のテレビ放映があった。千葉市行政でも考えて欲しい。
- (松戸委員) 撤廃は難しいと思う。緩和ならどうだろう。
- (事務局) 他の行政で撤廃したところがあれば参考に話を上司にあげていくことは可能である。個人情報保護法という法律をもとに千葉市でも条例を作っている。どのように撤廃や緩和ができるかはこの場で確約できない。この話は所管部署に伝えていく。
- (松戸委員) 見守りについてはどう考えているか。
- (事務局) 千葉市全体で考えている。
- (地域福祉課) 個人情報の関係と見守りについては千葉市全体として高齢者等の見守りのネットワークのシステムづくりを計画している。原案を6区の意見を聞きながら進めていく。あくまでも1つのシステムである。どのように連絡体制を整えて市職員が現場に向かうのかというシステムである、個人情報については、5月に9都県市首脳会議を行った。さいたま市で住民票のない方の孤立死が2件続いた。国にガイドラインを作って欲しいと要望している。回答はまだない。個人情報と見守りについては千葉市独自のものが作れるか各区の行政意見を聞いている。
- 個人情報については審議会に緩和の依頼を以前したことがあるが、個人情報保護の緩和については認められないという結論が出ている。昨年の地震や国への要望の結果を待って、審議会に再度緩和を求めていく。地震や緊急時に個人情報保護の規定外でどこまで個人情報が使えるかガイドラインを要望している。
- (矢島委員) 民生委員がここまで動いているのに行政がなぜ動けないのか。
- (事務局) 高齢者虐待の困難事例には区の高齢支援係とあんしんケアセンターで対応している。民生委員にも協力してもらいたいが、あんしんケアセンターと民生委員に見守りをお願いすることも多い事実もある。今後も難しい問題には市行政も関係して対応する。
- (中村輝委員) 民生委員も高齢支援係やあんしんケアセンターに相談はしている。おゆみ野にも若年性認知症がいた。市行政に相談して良いアドバイスをもらい今は平穏になった。そのような事例もある。また薬物中毒者がいた時も市行政に関わってもらった。国には個人情報に関するガイドラインを早急に作成してもらいたい。

## ②協議事項

主な発言内容は以下のとおり。

- (岡本委員長) 災害時マップ作りは小委員会を作っていない。松戸委員から避難所については市のデータがだめだったとの報告もあった。小委員会を立ち上げたい。松戸委員や時田委員に入ってもらいたい。あと2名くらい任命された場合は受けて欲しい。11月には小委員会を立ち上げたい。障害者の関係で坂井委員も入ってくれるか。また矢島委員はでられるか。

- (坂井委員) 早めに連絡をいただければ参加できると思う。
- (矢島委員) 大丈夫だと思う。
- (事務局) 小委員会の活動報告を行う。児童生徒と施設入所者との交流委員会では9月に土気中学校からの手紙を各施設に配布した。その後、2箇所の施設から中学校へ返事があった。また小谷小学校から101通の自己PRカードを預かり、現在協力できる施設を事務局で探している。
- 地域の見守りネットワーク構築委員会では、資料2にある要領どおりの講演会を企画している。タイムスケジュールのように進めていくが、具体的なところは小委員会でつめていきたい。アンケートの回収率は現在58.2%である。まだ集まっていない地域もあるので最終的には65%くらいになると思う。12月8日の当日の駐車場として推進協委員はあすみが丘小学校に停めて欲しい。一般参加者は土気南小学校に停めてもらう
- (岡本委員長) アンケートの集計が終わったら、小委員会で協議していきたい

#### その他

- (中村副委員長) 本日はこのあと広報委員会があるので委員は残って欲しい。
- (事務局) まちそだて事業の補助金がある。平成22年度からこの事業を実施している。30件の事業が採択されている。福祉関係ではおおかぶ会が継続活動している。24年度は12事業が採択されている。3年間の補助で限度額が15万円である。スタート資金なので3年で終わる。スタンスを今後見直していくつもりである。25年度分は来年1月に広報する。単発行事は対象にならない、年間を通じて行う区民への活動に補助していくつもりである。15万円の限度額を上げていく可能性もある。また社協や育成委員も受けられるようにする考えもある。小委員会でも今後考えていって欲しい。
- (田宮副委員長) 最初の計画の段階で中間報告の義務はなかった。突然ルールを変えるのは辞めて欲しい。あと最終報告会はなくさないで欲しい。
- (事務局) 全市的な意向もあって中間報告をお願いさせてもらった。
- (岡本委員長) 今後は口頭ではなく、レジメとして出して欲しい。先ほどの神奈川の事例も出せるなら情報として出して欲しい。情報共有をはかっていきたい。

委員長が閉会を宣し、第3回緑区地域福祉計画推進協議会は散会。